

令和五年度

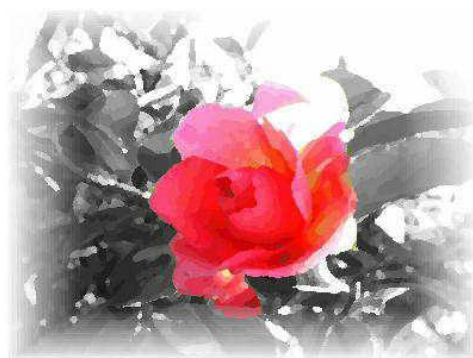
ほうりん廿日市幼稚園

ほうおんこう

こども報恩講

安  
穩

あ  
ん  
の  
ん



【安穩の解説】

現代に生きる私たち一人一人が、自己中心のこころを反省して、おなじ命を生きている相手の存在に気づくことが求められています。

自分ひとりを善として、相手を排除する考え方に真の安らぎはありません。善と悪に固執する偏見を破り、対立の構図を解消できるのは仏の智恵だけです。

親鸞聖人は、仏法がひろまり、世の中が安穩であることを願われました。

○報恩講とは、親鸞聖人のご命日の法要をお勤めすることをいい、お念仏（まことの心（仏智）のみ教えを現代の私たちへお伝え下さったご恩に報いる浄土真宗で最も大切な仏事です。

一人一人比べることのできない大切な存在として、いつでもどこでもどんなときでも私たちを見守ってくださっている親鸞様にありがたい気持ちを込めてお勤め致します。

### 【本日の流れ】

- 1、はじめのことば
  - 2、献灯・献花・献香
  - 3、おつとめ（奉讃文/正信偈の歌/ 重誓偈（じゅうせいげ）
  - 4、恩徳讃（斉唱）
  - 5、黙想
  - 6、誓いの言葉
    - 仏の子は 素直にみ教えを聞きます
    - 仏の子は 必ず約束を守ります
    - 仏の子は いつも本当のことを言います
    - 仏の子は にこにこ仕事を致します
    - 仏の子は 優しい心を忘れません
- なもあみだぶつ なもあみだぶつ なもあみだぶつ
- 7、お話（職員より）（紙芝居/親鸞聖人のご一生）
  - 8、お話（園長先生より）
  - 10、報恩講の歌（斉唱）
  - 11、おわりのことば

#### 報恩講の歌

一、和歌の浦曲の 方男波の

よせかけよせかけ 帰るごとく  
われ世に繁く 通いきたり  
みほとけの慈悲 つたえなまし

二、一人いてしも 喜ひなば

二人と思え 二人にして  
喜ぶおりは 三人なるぞ  
その一人こそ 親鸞なれ

#### 恩徳讃 おんどくさん

如来大悲の恩徳は にょらいだいひ おんどく

身を粉にしても報ずべし みこ ほう

師主知識の恩徳も ししゅちしき おんどく

ほねをくだきても謝すべし ししゃ